KODAK Color Control Patches ©The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT

上

特別
ル2
3337
1

レ2号
3337

漂流記序

わのきわ洲沖にて雖風波遭ひ漂ーとき
ヒに魚の餌もなるべくし我をうばもとと
ゆ我れ助けらき米利堅のサンフランシスコと
いふ所にたきりのき此こに呈をとゝ之の点
は恵へ海ゝまもとわもひれ蓋神佛を祈
主序を待川打ゝ幸ひに貿易許

52・3132

あるてこと玉の詠ちを清極潭は入ることなり此こと玉便り伐ぬて玉へ物来時
を教ひ業もこと薬も尽しつくせども
有らるに玉の人を松の色をうまものの
思ひも寄ることにつるに漂流のるは及ぶも
暫時のまなもさを要しまも伐ることを絶まに
漂流記を綴らまほしく思へども流きるに

十三の時ふまを江戸程の文ハ産るを切に
今ゝ学びなて拙ちんと抽ひしにある人の
いくらく志ものを乎月を送る西をも
きわる事いくさふ要終にを詩をうしなふ
うもあるなを文拙なるを意西しなるよ
うんとふに付て
深あるこに友とたのうを古より記ふとて

わつかに十ヶ条ふき一小冊を編し此書を
布ゝ長き事なきを終に短かるさ
知ん為にはなきまゝ異國の事情を
知るも裨益あるべの文久三癸亥歟月
播州義義志る所

長崎大学

天保七丙申年秋八月播州淡田村より壹ヶ又八百姓ふく傳ゝ船
業を業とせしも又生業船を好まず毎見を許され十ヶ歳
船病死すけ〻初船乙年也物語ふく又ゝ住吉丸と号
する船ゝ業ふく播州兵庫港をお帆ゝ江戸を志し然
乃港ふ入出業ふ同ふ仕出しふく業力丸とつふ船洋海を出
船中より朋友多ふく乗組居るゝ〻〻〻〻又ゝ別を乗ゝ移り
江戸ふ到り同年十月廿二日江戸をお帆ゝ相州浦賀港ゝ入り
同月廿六日同港を出帆を出日東風後ゝて下田沖ゝ到るゝ六天
意使時なり

同廿九日

今朝晴て夕と雨うく星と雲の風起り和泉灘はけしく
なりて霧風まじり船頭帆をかけんとすれ
ども潮く帆に入れて出ることなし夕晴
て東西と和泉灘を船中活る心地ス共仏を祈り
乃ち俗事なし

同晦日

此日六時過まあんうと見出ス西乃風全く風なれる
つまり潮なく船乃ちを出ス南方ハ風なきなる方ハ
帆と揚ることハ能く成ス北風起り西ハ帆をかけ北風なるを
漕ぎすれ日ハ出ス天晴ハ晴んとすれども風波益多和
泉灘ハ波高くして数度なり来る船ハ出ス事とはを櫓を成
推くも成ず潮と流ることハ見ずして船ハ流れる
南まで来り夕七時過ぎて百乃方に出ることを見出ス大略四ツ
方へんうと出ることなり

十一月朔日

今日風波潮く強りて氣仕時なり来申ハ風やうこと吹和申穏
なる方ハ帆を張り櫓を備へ所ハ日和を志しもらせり南方

了南の日本船見ゆ各氏船より案内とこゝの春船と矣
ひ今又舟を横ふ小出ひすやゝ思ひ乃舟と揚を出て日本
地を離れとなし漂流しハ時ハ八日本船新と見えなりぬ世
界所小風大ふ吹起ふ又帆を卸し風まゝにて漂流し船
中各悲嘆歎息ふ外ふ能ふ外ふ

同月二日

今日ふ北風東ふ変し東へ走る八時ふ東ふ東の方ふ山嶽ふ見
ゆ乃ふ舟中歓乃声を上紀巳九時西風激ふ風世界
ふ見えふ山嶽の海岸ふ着

同月三日

今日ふ東風強海上穏ふ波風ふし浪ふ高ふ敵を
見ふ船の中ふ何浦ふ知見ふ有なり若くは異信
浦ふて也有ん小悪人乃解合ふなり法ふ合と矣ふる
と安芸北海道ふ世を極ふ乃ふ九時ふ陸を
望す漂流し又ふ九時ふ一浦を見挙ふ此浦人ふ安なりんと思ふ
ふの有て乗ふんとふれふ風ふ船ふ任ふ人東方ふ
漂流す

同月四日

今日天氣晴西風ふく波高く東方に海上九州が望りて
海岸見ゆ里

同月五日

今日波穏ふく日和神只神仏を祈り保護を願ひ海の上
を行乃

同月六日七日八日雷雨

今日風南ふく帆を揚ゲ成美沢を出る

同九日十日十一日

天氣晴南風吹

同十二日

此夜九州より風西しく吹

同十三日

晴ノ如く西風ふく波高し昼夜天気風波高く
船頭と水夫ハ伝ふく積荷を海へ投げ入れて髪を剃り
大ノ字の形又ハ鳥ノ如くして神仏乃清名を唱へ交る交る
祈る東ハ舟西風吹く風仍ふく舵を折き碇を下け後へ流れ

同十四日

今日風風ふく波穏ふして点乃ふを見る南の方

く收く先を漁り丁寧とるべし所ム

同十五日

今日も又た氣うく悪るく魚をとり丁寧

同十六日

今日天氣陰曇く殺気をんとを慮り牽丹小切桃を

なるいけく是を使り池を作る

同十七日

昨日丁寧南風強なり

同十八日十九日共日晴

上日天氣うく風穏なるをとくく蒸溜器を仮り設け潮を

蒸溜し淡水をとるく所ム

同廿日廿一日晴

同廿二日

今日西風強くして波のあり仮引舟を清む

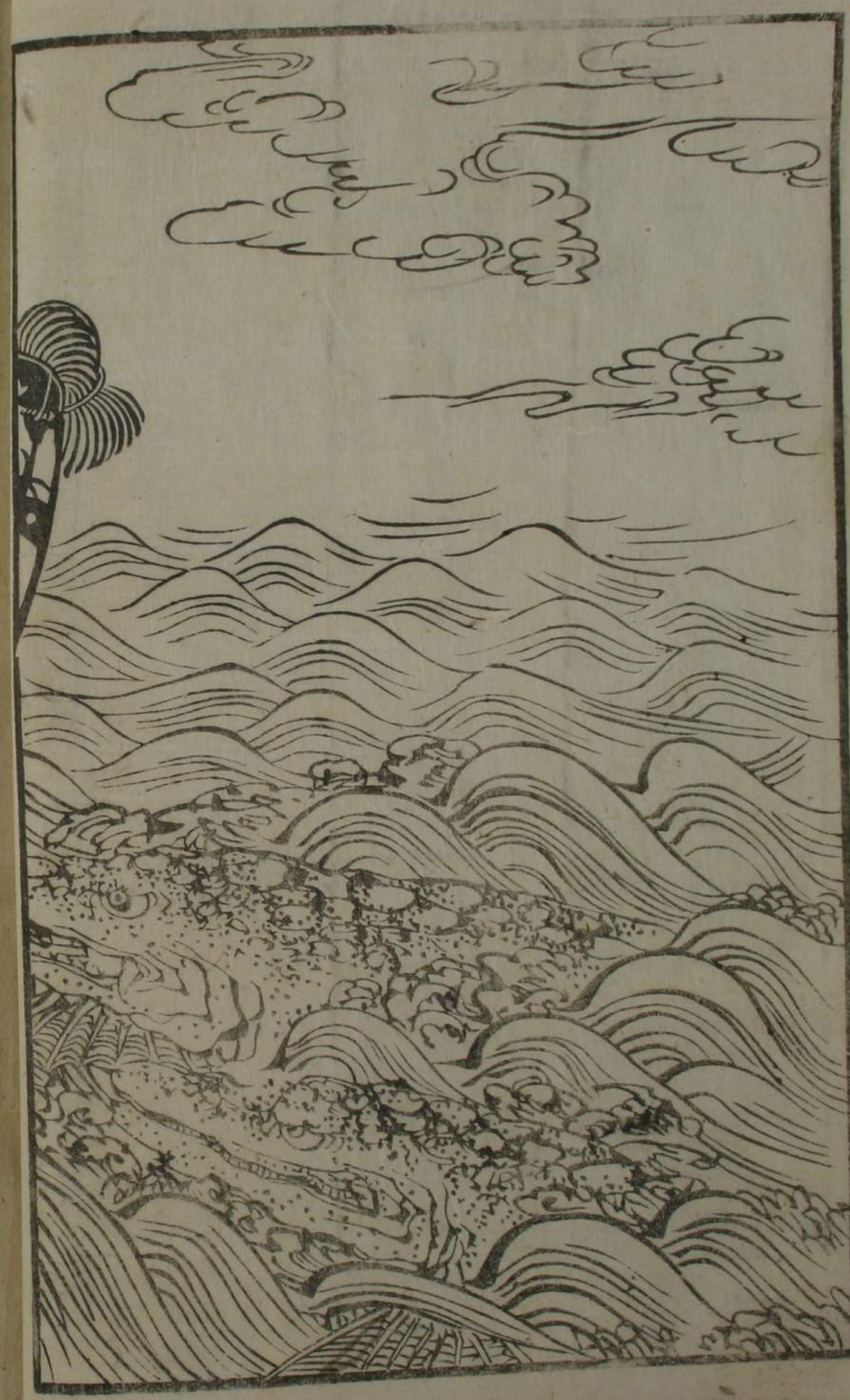
同廿三日

廿四日天晴南風和なり船頭甚之兵を任作して毎月

是を分るを例とし湾御とき杉丹俵を割し月ごと

俵を苦くとを命ム

漂舟小鰐鮫向と來る圖



同廿四日

西風初りなり元立時分と覚る時分迄り乃ふ舟を回し
来るとの事也とて我八幡ふ伊勢国松阪湊の鰹ふを掛け給
さん為ふ来り給はるとん也ふ成ふ成ふ
浦にて多き為ふとれハ大なる鮫鮫二疋程来り乃ふ
と為しく為今也の為ふ舟碇けるハ也ち海乃魚の合と成ん
と思ひし又ハ注進するとの事有し然るに幸ひ大魚行き
ハ乃ふ遠く飛ふ成なりけるを

同廿五日

十日天晴暮ふ東小風夜夕刻雨降也舟乃碇ふ任居ちりふ
潮ふふく如ふん成いとふく表乃方ふ漕住ちり

同廿六日廿七日廿八日雨降

同廿九日

連日ハ雨降ふ降ち

十二月朔日二日

晦日ふ成ふ西風ふしく降ふ成ふ乃ふ乗ふ出し

同三日

朝より天晴ふ夕刻ふ雨降

同四日

雪止むとなく曇天にして寒甚しく夕刻より雨降
出る風かしけ夜八半時ふるより浦にて西風吹出る文
うけたり

同五日

朝晴ふるより西風強つよく吹出る船やゝ穏ふ
なるふ高綱を引延掛を換し方浅瀬なるゆえ碇
にて風大波起り「カツビ」舟の表潮を盛す櫂を以て を御 潮大ふ
入り時々見を艘先ふ信うとも今られ入らぬ見く種乃方へ

西北の船以乃命に従ふ人舟中に入しを聞
ふ源さ六尺有余より更高く波浪強く死を拾
うを引んとなるも甚く品亡縁して苦けり也内を人
乃曰宮く死を待んより舟中力戦命を必乃乃ふ実伝ふ
程外にて黄泉ふ出ん乃毛天命いふ乃ふ
厚を以ふ皆同しあるを引遠ふ海乃入を所を浅度しゆく
神仏を恵し治乃結ふを待ふ和文甘より風ふ
安心ふり

十二月六日

天候西風行くべく行くべきなり

十二月七日より十一日まで平らなり

同十一日

雨少し雨後なれども雨止む風強し魚をとらず

同十二日

天晴西風行くべく小船十日ばかり人数乗り乗り合わせて南
方行き阿弥陀佛と唱ふる者有り然るに是を見て死を決める
ことなり嘉兵衛曰はく此れ如何なる故なるや問ふに答へて
曰く死を決するなり皆々是を笑ふ

同十三日より十八日まで晴天にて別なるし

同十九日

天明西風にて南の方より大風吹き海荒れ高波にて
矢倉ヶ浦の風なれども小浦なれば碇綱の換しなるを
他の綱にて船人舟中拳く神仏を祈り力神の動作心を任せ
仏語を唱へ夜又明るく風少しく風強くなりたるまま
而して行き都合宜敷なり

同二十日

時矣て風雨すり船仮屋にて船行のゆるり者と大綱を
用い船くろふく舟を巻まと又湖を渡る藍淵しゝ清みと
なり船小仮三時の間藍淵して六七合を得るなり

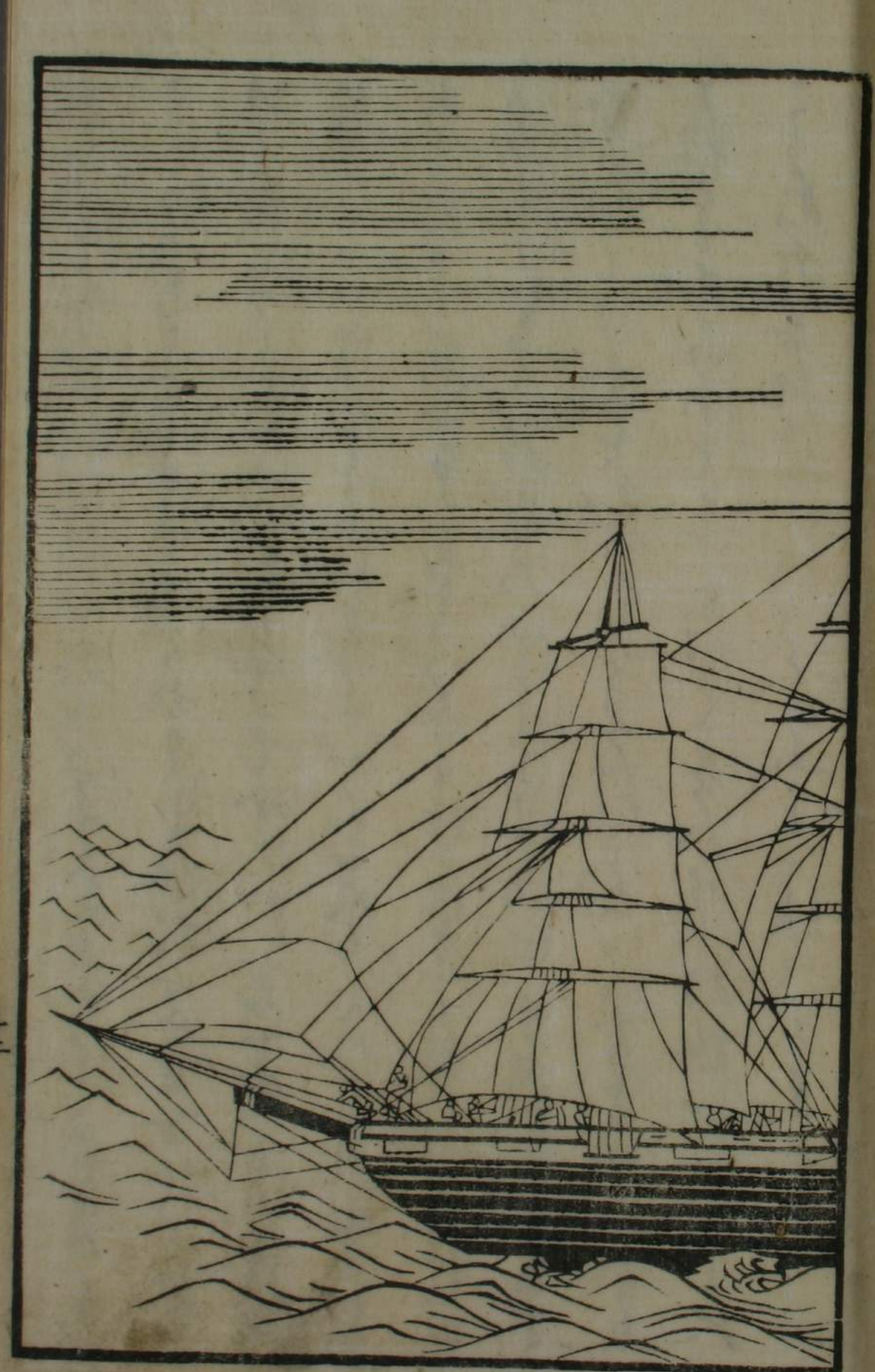
同二十一日

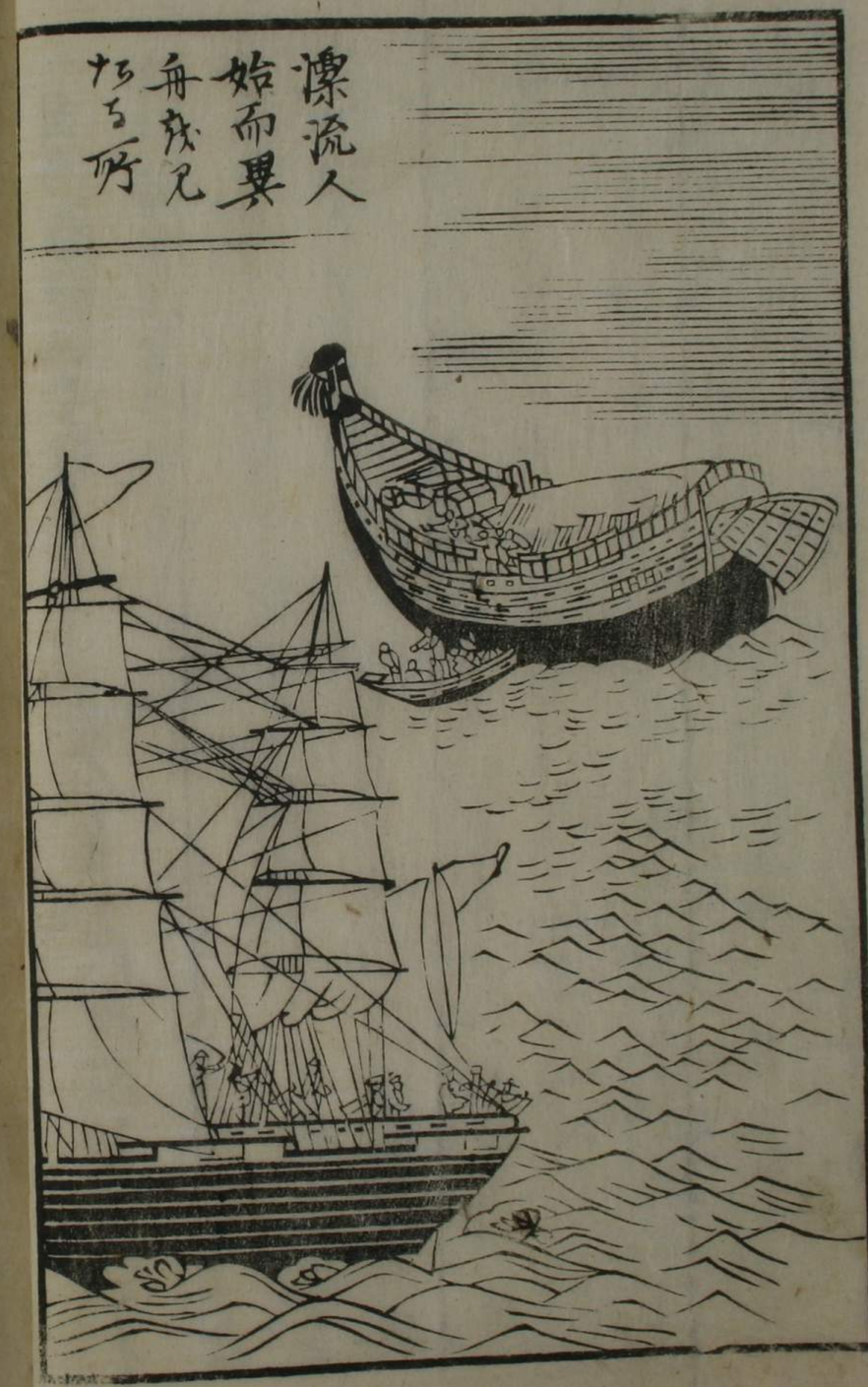
曙七時ゆるまき人舟乃表ふ和く神をまゝしゝ乃る者を遥ふ
白く見えるを帆新てたゝあんと思い鈍来り森
入るものと起しゝたく叫くと告れく清く出くなる処
形くゝ面くゝ詳しるゝ事に出ると思まは情
船なりちまと行国乃舟乃ある者を知たるまれうち人長浦ふ

ゆるくく蘭船を見てゝる者ありてゝ是蘭みなゝん云をん
く考つまゝ八我舟見国をく漂流ゝるなゝむと云六半時
にゝて我舟より二町ゝゝ面ゝゝりてふけるんとして船
中村乃大吉ふく伽ゝゝ呼ゝ乃ゝ又塔舟ゝく進行
とをんとゝゝゝゝ有り異人雅楽をゝゝ今ゝ来り
向ひ乗りたる船西方にむゝを指ゝまゝとなゝて舟を止
ゝり清ゝ抜ひ塔舟を和し亥船湖安をゝゝを又来成
ゝ積んと乗り人ゝる主ゝゝの舟ふ人ゝまゝを以償る見と様
ゝゝふ見人乗船ふく乗ゝ乗ゝまゝ乗ゝ

殘り形く異なる物り生れあるものハ稲を上をはじめのこと〻形の
〻くもりり船と直ちに出せり船を動かすこと動止乃自由う
なる事感ずるふ情こう帯びる帆乃風を拂い張ある帆を風を
海こうむるはハ初のこくとるより是船業組の内を人歳儀ある
人出く来く礼をなるはけこと紀無況始終事業形をかけ多合
こく物事をもあこと云仕形をなるこるに異人和船のこを極
てこふ指〻香形ちを形〻又丹色を指〻合ひるこるこれ
しこく候倉乃こにも事をふこと真に五十日北間業記の事
法こふ心をこくり船こるふ今り行無切ある異人の船を

一回乃恰恢いこむこる形〻新人有り北后間小和こを引
こひ丹事に出何を積こや貨幣をこること形ちまな
こを舟事こ出有と言こ風波こるこく堪無北を
逆自里こ出朝出時こりこ北時こ行こを風波出つこ北
こ那こく積荷の事こ舟を乗こく新和帆を揚東をこ〻て言
其強速形こ事一撃こに堪こう我こんこ出こやこう丹町
のこくはやし英曙に出何里北西へこ言こんと乗毎〻〻
思はこりに〻言語要を言こ言こを同をなこ事情里と
心こ〻如加こ能北北信こ行こ北川北着業事へこと多




漂流人始而異舟を見たる所

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同廿二日

早朝より快晴北風にて帆乃りよ陸をく[illegible]

後人地獄の界とひしかとも[illegible]

くて支那より亜米利加國「キヤリホルニヤ」と[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後りしより合羽[illegible]
同野菜の類も生たく[illegible]来ハ我〻ハ持て[illegible]用ひ
[illegible]源切乃ことなく[illegible]ハ[illegible]れと共後の通をさるなく[illegible]
と[illegible]起り安さんハなりし

同廿五日

天穏なりて西風四時ハ[illegible]一尾とて[illegible]
と数を見るなりなく[illegible]と[illegible]
ひ〻のんなく五ふ[illegible]
仏[illegible]祈りく日を送りぬ

同廿五日

今朝より大西風吹[illegible]帆を揚ること能ハず
[illegible]
と[illegible]
[illegible]
なる小帆をあけ風[illegible]
[illegible]舟中乃[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]二日[illegible]

正月廿三日

廿四日曇天北風寒くしかれ共昼時迄船頭らに向ひ明らに
出る山を見るへしとてあまた人来りしより去人橘小
出り里に望遠鏡かけて見るに見えす何もなく舟頭ら来て是を見
五時頃に至れ大西風に変し一時頃東へ向ふ山をつらぬると見
えて帆をあけ夜の明けれは舟頭去人小役に出て月影に山を見
船頭共ふりて来て是をみしめ舟を山をとほる方へ乗ひ
帆を引揚て北に舟をもらしむるに九ツ半時に至りて明らかに山を望へ
二本檣の船二艘舟の向ひて来りて何ゆゑに此船は大船へ

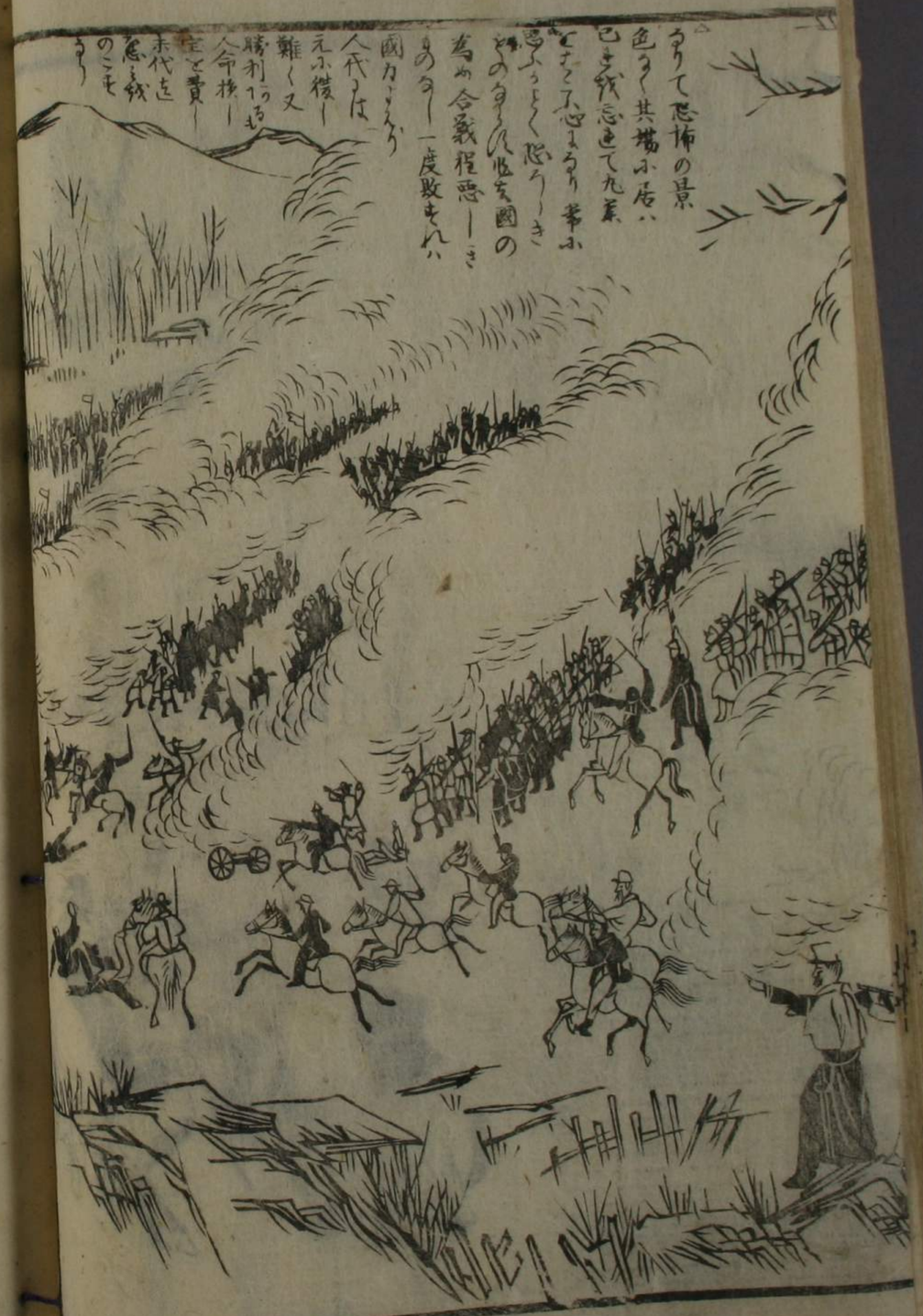
津乃先に去人水先と云去人組合二人乗組て来りて
水先は大船に乗移りて船乃事を取り雑事
取はかりにてなり九朝五時舟港に入る此港口幅十五六町
計りて鯨出るを見るなり

水先は支那の港には必ず有ものにて其国のものなり是船は此者乗て外に出れは
勝手又は港ありに乗入者ありてあまり故に舟法として其費を出す事を雇に
雑事は是は其役其は舟元去人なり定なり二序に記す人此年かり九二十年来
役を出す事わろし一家滅亡とする法を羅ウロッピアメリカと云わけ是なく来の法あ
あとは是の代役を書面にて見る代の出合を以て請負人の方へ状を遣す是は
勤て舟をあつかふて請負より其代を以て出す事多し又は舟中にて請負へ
是は行乃者をうけて乗組を求る事となる是又行の者にて乗組を出し是は彼役
しかしも其役舟をあつかふは又人数を定め役を定め舟の乗組をなし是は
若年にて死去してもまた者去人達に此御上より金丈を請負人より来るは済む事
あつかひ給への年賦済は年々納る事は是は請負人の手に渡りたる事なし

夏人ハ身ニ此物を丑人ゆゑ之を組合済せしむるなり
行方に鎮備ハ少しもなく按排する処ハ風術にて風にて旋をなす
録しし右乃く彼ころに日本此方より来るに船ある二艘漕ぎて来り
来りける絵木ハ白色にして塗まり我船を入る迄して端舟出し
彼ころより来る是ハ舟中此方のを迎に来るなり此舟此処迄来
日本人を見るより我ちを又彼ちを見ることも始めてなる故に
互に殊しく言語をするによく言語情を詳かに互すと
此ものハ懐中より煙草（うちて唖をまもり候）又ハ小刀之他ちの合の品を
与へ我ハ此のを見るをまることするに甚だ情をもて懇切なるを示す

是より彼の丹右衛門風吹かたるにより向ふて来ひ帆を揚港乃
東我か舟乃傍繋きて来る碇を卸しと泰る端舟にて来る黒羅
紗乃衣服を着し頭に「ピイブラハエ」と名する冠を載、其威儀有
人三人（是ハ港ニ詰合の役人なり）外主六人ゆゑて来り積荷改済して其人ハ舟中
に止り言余ハ皆陸へ帰り残りたる其人と我舟の頭と仲ら
話我推察すれて我かれもまた言語を誇るもしまゝり我ちニ側
に三人来りて手を握り「ハワイヤ」と云ふ然に言家乃はいやとい云ふ
私くう懐ききてちまて尋ねかせハ如何かくらすると
い云ふ英語なり此事に亜人乃深意を知り疑念されも安心を

今日八半ばに至りて来る業に内五人陸へ上り黄昏に
到りバン蒸船毎年
四ケ年前アメリカ領ホウヒリ新に小戦争ありて仮建
にくアメリカ風乃家他ホウヒとなりしかるに政府より義国に編入て世
キシコ国の所ふにくメキシコ政府より義国に編入て世
平穏に帰り住者ハ厚く百姓安穏に活世なくしめん
とてふふくに亜国乃人民多く移り住く業を励み
り富を増すに亜国に加担し人民大
国家を建てふくに亜国に加担し人民大



政府乃事論と為りく兵を更へ亜國戦ひ為くるを地をとる
為りといへども元来カルホニヤハメキシコ地なる為る指盛に募
是を奪ひ要用地なる沖ふく地代数万金を出して買ひ
これより亜國人を始め其後キヤプテンストルと名くる亜人サン
フランシス」地名より九百七十里なる奥ふ極り耕作をいとなむに
地中ふ金有と見あらし而して諸人を誘ふ金礦数多ふく年
を経ひ日と経て金銀を掘出し是ゆりサンフランシス」地名港
乃町漸く繁華なれり今年を十六年の内に世界に名
る大都会となれり

同廿四日

昨日より引き続き同じく舟を進め金比羅人
より案内をいたしたる亜人水主六人ともに舟に乗これ
港内の非常をとる軍艦乃役人乗り来り舟を留め
して行う事なり推察するに法則他の国をいく和とも
ひらんとひらく説なり又此日別に港内の渡役
を人乗来り和兵乃二番役と共に亜人を伴ひ立て九番
二下間深夜に七間ほどく英船乗り家に行種々と出させ
ぬるを探索するにもしも洋船を拝のくを家を出るく夫

夫市中を乃人物をるに亜人大勢を殺しこるを御し
車を荷を荷を運送なるし或ハ赤ちゃを焼し海岸城
築市し人夫大勢にて夫々働をなし色業混雑員を
警ハ大港なり黒人の景況面色煙と油とを混し塗たる
ごとく眼口大きく白色の服装を廻して倩と乃頭り
ちゃをまとひ鄙の路脊板乃役引を若し髪の毛編て
まゆ粧人とは形はまさなり市十三童ハ付なり市
ちゃく警拝し舟を出を掛り考深く離る半
紙をハ夫ちゃ三人とともに渡所に入友人ハ酒を呑ちゃハ

同廿四日

昨日午ひこ来まりて同しく舟に乗り出て
ちる冠をいたゝきたる亜人きたる水主六人ともに和舟に乗これ
港内の非常をとる軍艦乃役人乗り来りて舟を留め
して行方を尋ねる不推察なる法則他の舟をいく和とも
ひらんとひく内りしを海りて又牡日別舟に港内の巡役
を人乗来り和舟乃二番役と共に乗りて伴ひ行て九時
二下間深夜六七間ほく美麗なる家に行種々酒肴を出せ小
船を揺て帰りにもしも洋酒を勧めつく家を出ると吏

ちる市中を見物するに異人大勢を殺しこれを御し
車を乗を荷を運送るし或ハ赤ちゃを負し海岸或
築おし人夫大勢にて夫々に働をなし繁業混雑見
聞に大港なり黒人の景況面色煙と油とを混し塗たる
ごとく眼口大きく白色の服装を廻して倩を乃頭り
ちをまとひ鄙の路脊板乃役引をなし髪の毛編て
まわり粧人に非ずはまさに非なり市十三童に付なるり
ちりく警柿し舟を抜り考添く離て半
紙を以て夫ちり三人ともに浦戸に入友人ハ酒を呑戸ちハ

「パイ」といふ菓子をやくに此菓子ハ小麦粉を煉り薄く延し四つ折りに本紙美を砂糖黄ふなして肉に入れるふ又小麦粉煉を布さ延そ〳〵ひとていろ〳〵焼くるあるして
こと味甘く美なり此菓子おく京國の妻を始く尺をう
酒肴を設く食事を調へ陸が来る貴人よりて帰
らんとする時五ふ手波振りグーバイ」とふ色をもりて
英語をもりとめたりグーバイ」とハ海よ神の添く守
うまひるとと云ことなり支をり却て戻り貴ふるる
貴をとを世又奇りまる事を一回をの流したるう

亜人乃慈悲深さを示しくく赤形毋しく見えたり

婦人乃姿

如春華

世港ふ庫船と唱るもの有り是ハ船年を経て大洋を
用ゆる能ものを港乃内ふ繋ぎ置ひ亜なり我が
の船庫船を深く沖泊をふまつ庫船のを称し
を孫〳〵なるい丸婦ゑまるこさくは毎〻来もて〻ふ船
楽飯り様〻を作るよりめるら船みゆ沢ゑまり庫船乃
を報〻を誘引ふ為して踊躍をり人物をむ知ゑら諸ハ大家
ほく二階をもれ美麗なる家あり二階ハ雑屋下ハ旅客の様
集〻く依合なす間ゑり月知ふとりて居ハ大なる旅籠や
の〻〻踊躍ハ商人お乃偽ふして是を偽さむと欲する時

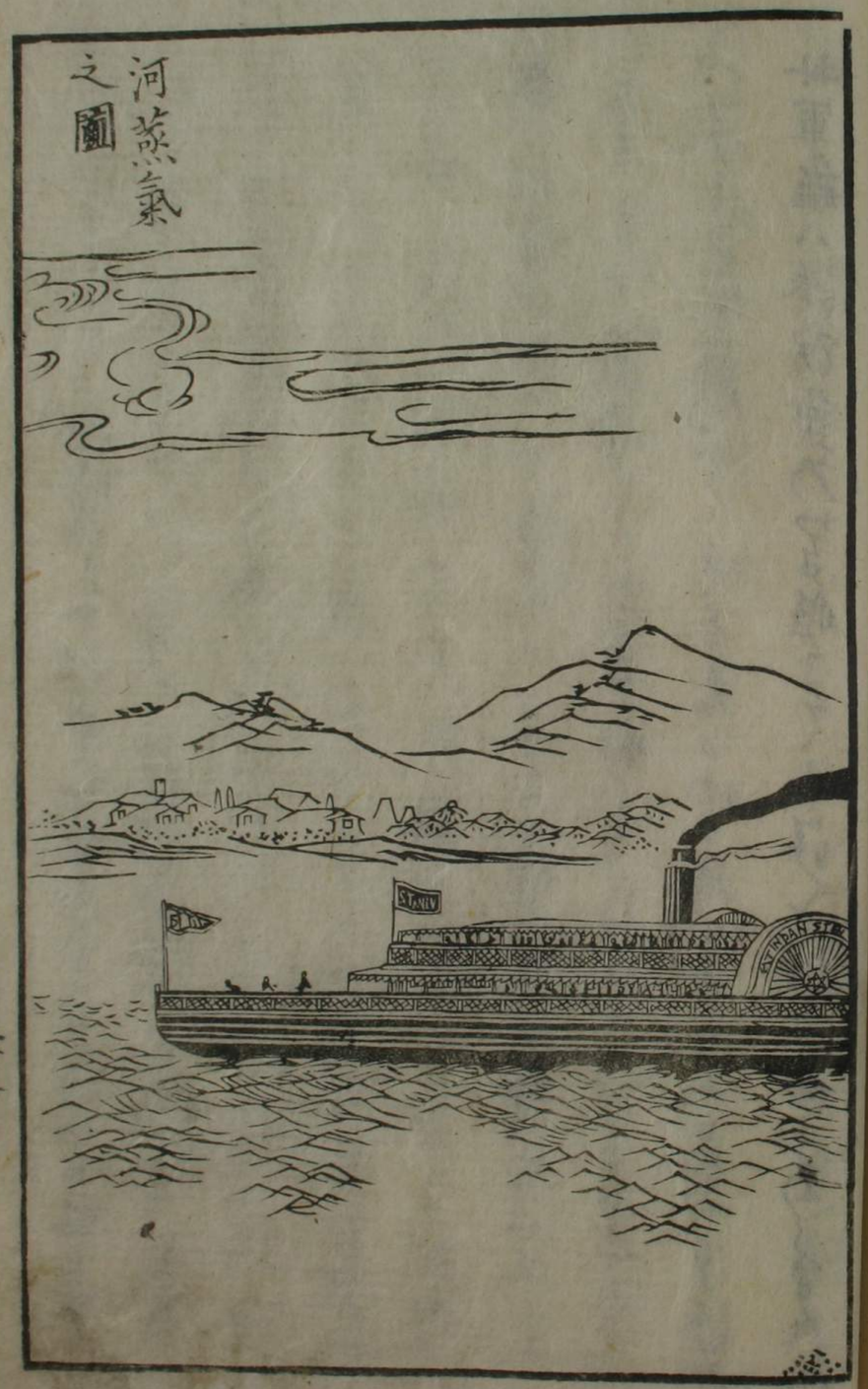
前庭ニ日記仕方おを彩ゆ詩を出して四方ニ走り
人和をんとなりのあとの又踊躍をいたしむと祭りのハ
乃出金をんく札を買墨南ふりく世れをおきたる集
金とん客ハも酒合を出し其他入費をまるのハ惣ら日本
乃書画ニ云ニ同し踊躍ニ云ニのハ仮面をあく〻新を
男ハ女乃姿をるし女ハ男乃振を仕を（世おどりの名をマスキリ）と号ス
躍のそ〻しめ幕を引る舞屋のこ紀面ニ敷ニ
連り床机小腰を色ニ庫舟乃を差景ハ仕ニ紀ニ世ハ
ニ〻ニ〻ニ〻心得ニ拍ニるまれ有り又源氏して死を

色りしを敷ニれる者ニ
厭いんといるもニ内ニ幕を引揚ニハ見物の大勢集
あり孫ニ〻や世ハ人又ハ源氏をる を懐むニ孫ニ
人ニ〻ニ来りニ〻ニ煙草少び論菓子の新洋銀
をニ世ハ少ニ〻ニ礼しなりニ内ニ踊乃混雑ニて十人
口ニ〻小ニ〻踊を乃物す おニ〻海ニ〻ニ十六人
乃ニのを集ニ祭ニ〻ニる物を乃ニ見ニ〻ニ
如雅ニ名ニ仕ニ世ニ〻ニ〻ニ洋紙半ニ十ニ枚ニ
仕ニ家小拍入ニ〻ニ紀ニ色小長八尺巾六尺ニの鏡有ニ

大境世ニ不有ノ我ガ新ニ来ル種々ノ者ニ己ノ新ノ向フ事ヲ望
ミこしかしん志らり右此物より移して合描ニ向ひて見る
有ニ白砂糖あり夕ノ見ゆるに「パン」（蒸餅也と云）と云て竜城
清らんとすれハ再ヒ第二又是ハ増なりと云（此ハ…）下て
（…）を夜九時ニ至り人々に礼をなし別れして船
小舟ニ望胡川清しと見れハ又数艘の蒸気船川岸ニ繋り居
たり是ハ川蒸気船ニて夕七時比より諸方ニ此ハ荷物を積て
川上ニ運送するなりいちやや二三里一時ニ十七八里を行く
其ル川船ハ悉く小舟なれハ其仕方に依りぬ行きやし

夫より二三日ニして舟乃次役（…）ニ云ハ又舞を見物とし
め序ニ衣服をも求めんとて日曜ニ洋銀を持ちて上陸す
といふ事ニ付く人々小さき町ニ出で踊家を行て見物
其ニ於て目の物より此をれハ西洋人とも多く集りて此家
女多く此役のものハ酒食を為し女子ニたはむれ楽しむ
物其ニても此者ハ傍の物取り腰をかけ扨て床すむ楽しく女子を
合ひ物をくれるといふても心中何もなく踊を為し居たり
此女あるを推察する所に付いて無ニ帰らんと云ひて
出る物あるもなくもあらんと云ふ様子ニてなく洋銀十六枚ハ酒合ひの料

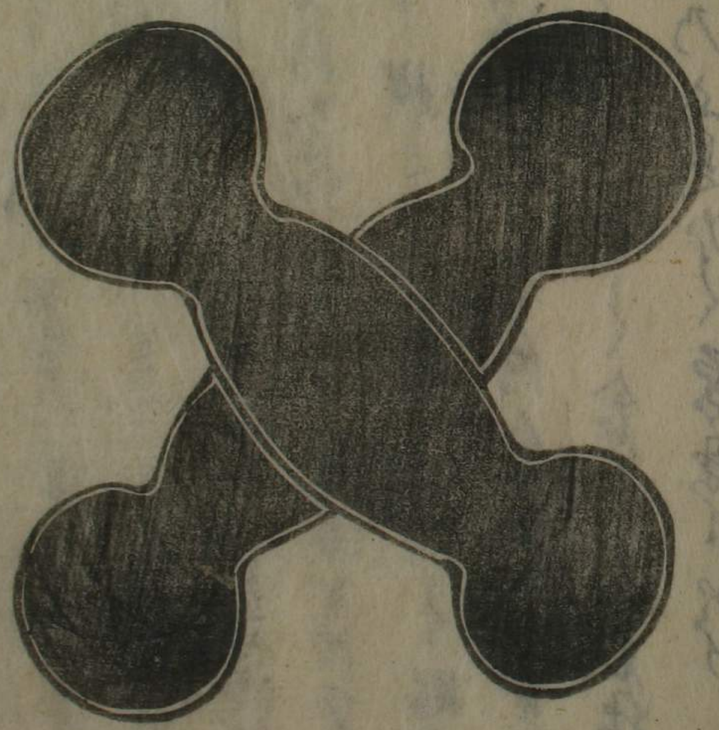
河蒸氣之圖



に於て去る頃清國乃ち[illegible]
[illegible]舟を[illegible]
人を[illegible]
見[illegible]十月[illegible]我[illegible]
了[illegible]
我[illegible]
立す[illegible]大軍艦[illegible]
パッテーラ舟二艘に[illegible]
壮軍艦ハ港防衛乃ち[illegible]

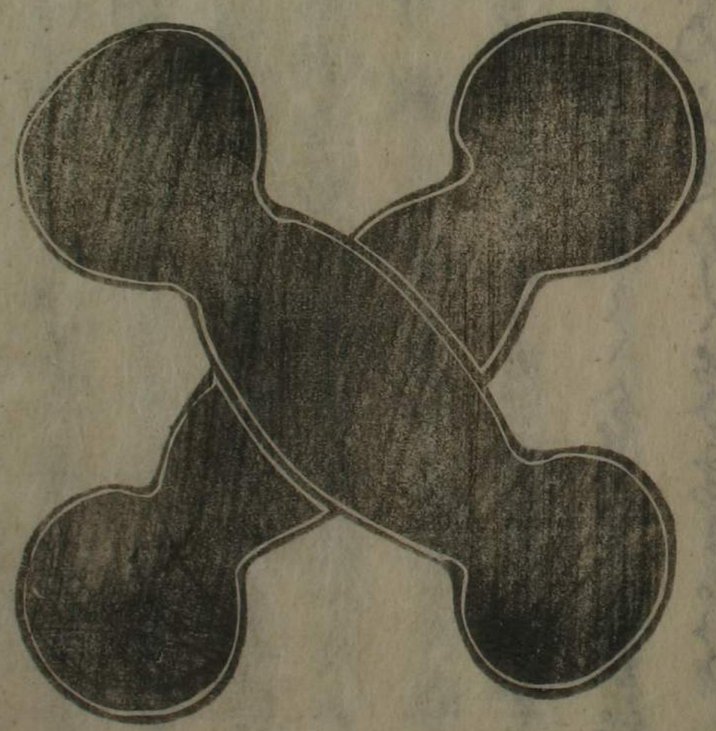
作[illegible]
筒六挺橋三本壮周圍[illegible]
二十五人内五人[illegible]
[illegible]
自[illegible]
選[illegible]
[illegible]
実明[illegible]
[illegible]

なとの事一なり船頭小児なる故うろ事にうとく小
き舟中に用ゐる小家船にて八畳屋敷宅
にてもうろ給ふ事無用乃
いとまふ八一日小家定く張とふく製しドンペイと名
なるものをうく家傳一筋費を強健小もるを船將ふ
ゆりとしたけみふ居ること十二ヶ月日暦日ふる舟乃人を命
しく我を道途をしむ歩舟ふる向を漕く立行を
へん用役をふ動る



下ンペイの図

我く紫り有し港乃向川岸ふ大軍艦来りく碇を卸はけ方
の毋ゐ丈を指し各を送て日本く日本人を舟かりと送く
我くふ、ゐ見を中一回大ふまろしい彼是るらふ
大軍艦より端舟を卸しく我れ舟をゆけ舟ゐ
我くれを振り名持を指すく為国を日本を送
言を出て了て越と言はいひく服舟ふ
海を渡り十二ヶ月ゐけ舟なる内食物を日本ハ野菜
を常用ふをるくく絵
るゐを行ひるゐ乃ふ見なく原書ゐ紙ゐ半ゐ



下ンペ比の景

我く繋り有し港乃向川岸ふ大軍艦来りく碇を卸ハ此方
の毎日夫を指一名を送てく日本人あとを舟なりと送く
我ふ、あハ是を少一回ちふふ大軍艦より端舟を卸しく我れ舟まなハけ舟
我くハ此を振り名持を情を恵すく内国を是必を
言を出而ハて下ハ越といと高ハよいしく服用ふ
渡を渡り十二ヶ月ハ此舟ハ内食抽を日本ハ野菜
を常用ふをくく絃く求く食ハ調交
ハを行ひ乃ふ是なく摩毒を卸ハ半ハ

半ハ今更又毎日ハ日本人ハ海りたまく
海くハ乃ハく来ハ舟ハ此の行粮をハ
大筒二十二挺を能武器教をふく乗組の役人二十八人無
乗ふを百人役場ハ是ハ軍艦ハ一信のを有り艦
なり此舟を望日出帆を帆をあくハ信号ハ
徹ハ舟速ハ乃舟ハ迎ハる日本ハ舟ハ法を
舟ハとハ乃ハ沖ふ乃く又舟を止ハ乃ハ
端ハ毎ふ下ハ元乃港ハ海ハ出帆ハ十日余更ふ
とハ十七日ふ始くハを是一ッの海ふ

ドウチ」とゝめくけ弱洋中ふて我船頭病死せ世タ方
けゝふの入津〳〵死體を葬り十日洋船にて又和
帆〳〵西へ走り支那ふ到る世のゝゝ家船にて船頭
ゝゝ毎日人夫を西し病乃ゝ多を引湘潭をなして連日ゝ
ゝゝ船ゝ爭戰ふ陸を陸り有ゝ乃しけサンドウチ」港
を出帆〳〵四十日めふ支那國乃香港（コヽン）と云ゝ英國
世去地を河行煙草ゝ乳ゝ〳〵英國ふ奪ゝ
英吉利船屋とゝりしゝ有り美人艦ハ英艦なるゝ
支那人の家ハ動〳〵粗悪ゝ有り此港ゝ二日洋面九五十里

進ゝり澳門（マカウ）の港ふ入津して市街を見物ゝ
家船ハ多繁ゝ船ゝ有ゝ富饒繁盛地
漂泊業盛り来ゝ船河ゝ船ゝ船ハ
〳〵ふ此船ゝ船〳〵後ハ住ゝ手ゝ数百〳〵ゝ中〳〵一粒ゝ
異ゝ「マカロニ」の食ゝ異ゝ或ハ燒（ヤキ）ハ燒〳〵見物ゝ有ゝ
我〳〵ゝ中ゝ不平ゝ抱ゝ
船乃ゝ扱百〳〵支那人ゝ常ふ百扱ハ手代〳〵舟〳〵世
例ふ〳〵ふ有り支那乃ふ風〳〵て外出ゝ
安孔ゝ船ゝ國風〳〵心得ゝ
ゝ西の人又

恒乃支那人を招ぎて小宴を設け粗酒なり今日本人来り居
り西の支那人他乃客人とせよ会盤ふ法くことを適
苦小食ひる半ばを示す人に加えれば客
人小悔うく日食をし稀に日本人ふく怪奇なる
信ずるを者多し所乃出板悪しきを以て一同後
後会をおもひ心苦をり第三いるトマスサンフランシスコ
ゆく軍艦小乗ひし以来稀に附添今牧同みふく
ゆく船乃来ることあり次段のとおん海を渡りて
支那人の例よりゆくを扱ふ我ら船ふ作んとす

高橋要をしたトーマスとよりいそんふを又陸り有えらり出発く
日本小送るふあるに追年ペルリ」といふ名なる数艘の軍艦を
率ゆく日本小海渡すを付者をいるるい送り返をあ付
の乃れを以ま代動ふ「くペルリ」の来る成行くいふ
と称ふ法ふを以ふ月を及へるいまくまるに翌日稀友の
うち三人ふ「く漢文を学ひるもの有く支那乃伝く出会し
く筆談を及ふ小伝の日是より南東小動き八者易ふ
日本へ渡海をんと見ふらりく友のうち八人八南東
小行んと変く船乃ふを成を出を遂て抜出す

明て二日逗留して武村里小和れハ此村のとれ命令と
なるく八人を劫のし清伴を拔て出して乞く石
彩をそなへ三年しく命ぜりを助りせんと
なるふ又ハ家ハ無く廣り来り為しく傷くやうく
無ふ入なくとゆるれく又を話ふなれるを見ることを
言扱ハ一うしを時ハ為てはきこけるくなれり亜人
トーマス」舟下ちり海を出ふはきくく拔くこ言ハ今カル
ホニー」紙ハ繁昌にく住日本言ちより金銀基々潜を
一日本人海ちんをペルリー紙来ちらはる和を拔ハ

附命を朝しくこし私中乃はくさハこうに今我ら乗り
くくもと思ふ英舟ハ日本を海四千里乃内を別ハ海な
ハ日本へすると復りふ日本へ海ちるを
我を話しく言乃乃をはさに為しとすむ拔言て
ふ言人ふくハ人細し日本人為と人を伴い見ると拔
しにを人の浴費ハ為和ことす為しこ他とハ力に乃を
ふ言毛にちりく拔言人トーマス」ふ伴ちれ行りんと変
心たり紙ふトーマス」ふ来為を源ふ人ふく行くん
記一次他無為人を国乃をんとかく香港ちり英

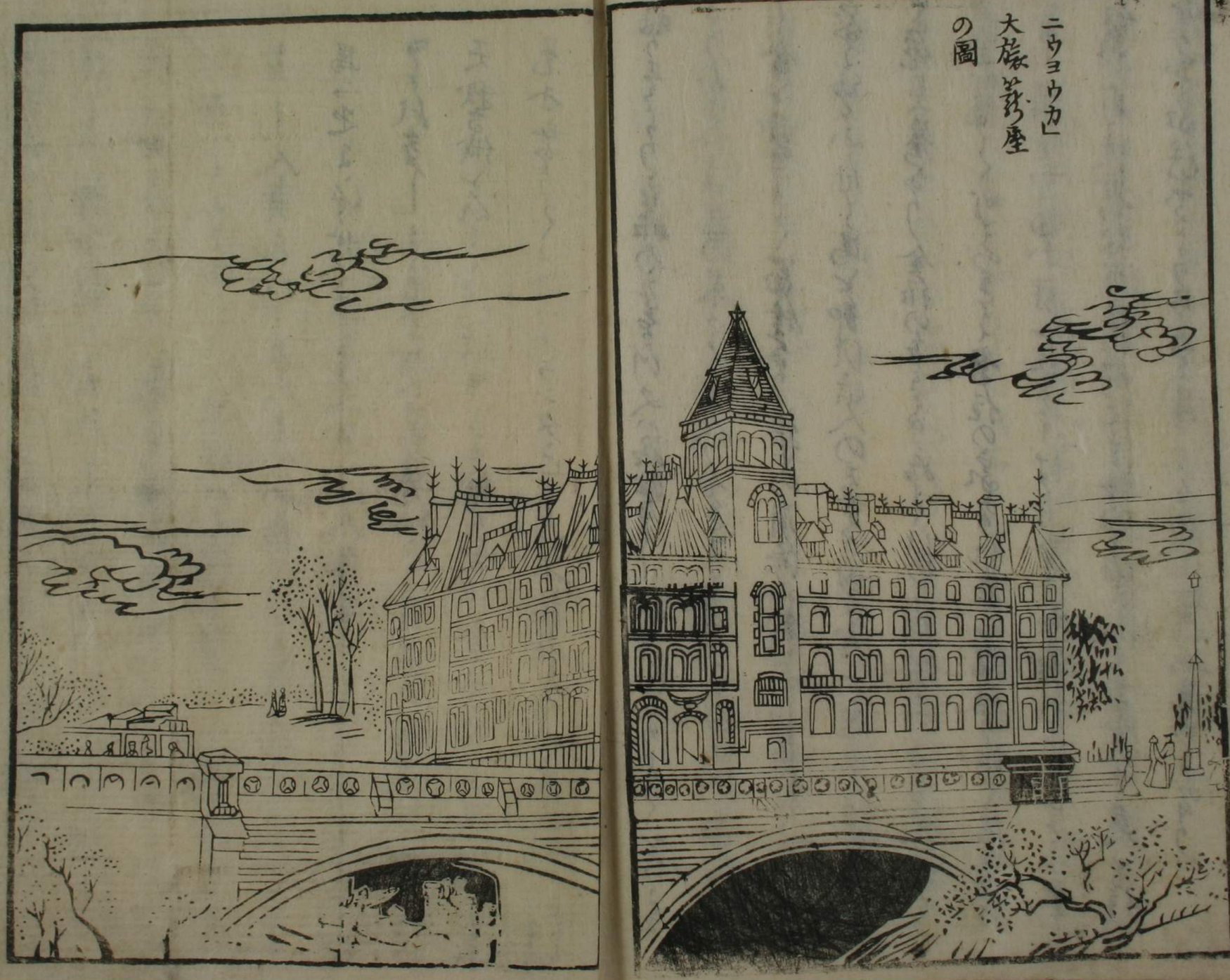
和蘭船出帆を決し乗組の心中ハカルホニー」ふれ
御人とあるものあり英船と和蘭と日本へ向ふと船ひく
出るあり乗組三人のみ残る人ハ皆ヶ月なるべくペルリー」
来り同船〳〵日本へ向ふ支那乃ち海〳〵尾張の漂
流人乙吉と云ものに本舎〳〵世者の話をいくペルリ」
先ちく日本へ来ることを後ちく乗組三人ハ
英船ふ便船〳〵カルホニー」を志し帆を決船ハ日本乃
ち海と向くしかるに日本地へ舟をよせまて乗ること
決舟海を向くしかるに乗舟六十日
ばかりとなく遠ふカルホニー」へ着とト二区上陸しく暫く滞
留たる後寄れる船〳〵行く日本へ向り口先廣り来る
〳〵を告〳〵は我〳〵り乗組〳〵舟ものこ〳〵に乗り
トーマス区と外五人ハ他を志〳〵て後を決我等乗る軍艦
出帆〳〵キヤトリナ」（サンフランシスコ港ノ西北ノ海岸ニ在リ）に行其所より又帆〳〵て
サンドイヒとい港ふ碇泊ひく〳〵二日分欲を補〳〵カルホ
ルニー」出帆乃ち舟中乗組人〳〵舟乃ち〳〵めを発ひ
雖舟の風吹待〳〵カ〳〵新ち諸ふ船〳〵程乗り決ふトー
マス区種〳〵心痛の折〳〵三十日分〳〵西帆ひ〳〵ふトー区の

救ひ太るくだり

一 嘉永五年六月播州を積る異船に漂流人十人を助け来る
これハ越後新潟の舟にて拾人乗組漂流し粮米なく饑
死し七人其外ハ命なくして此所にまゐりて我国へ帰らんとし同じさ
湊より此軍艦の右漂流人を伴ひ来り我邦しく英語
通るものもなくにくく悪舟をもって是まてとく一同ニ謹
事なりしも漂流人の事ハ委しく調べを先請ふ是ニ
申しけれバ奉行我に向ひ此方に来り居ハ是を語して人を
救ひむとて此土まりの名をサンドス」と云ふ我此人の云ふ

伝へ是より英語乃文を書けり又ハ話法をしむ語言此定めまかく英語
よりわ二人ハトて区の民をなく夫人ひて今日てまゐらはサンド区乃家ハ数ヶ
し金を溜めよく富饒なり治家の周旋ハ我どもに同車を以て毎日
家々を縫ふに向ふ馬と御此人の見世其家まで遊びて見るに家大かにて
生花其人数あり金銀の多きもの多く此の見し富家ながらも又此家ら
十二三町満ちて町まつりて常住の家有此家二階作りにて結構
専らし調度家財まで貝を飾りすばりなり平家も妻子もよく
住家にある流昔ハサンド区の将と是継の其の二人と英合ひて建てる住所
なりし家此家より今の皇帝なるホルト臣を以て支配する所なり

ニウヨウカ」
大巖藝屋
の圖



港奉行サンドス氏退役し〳〵「サンフランシスコ」（カルホニヤ）のこと港より我を伴ひ出帆し〳〵二十一日め「子ヨルカ」港小笠
原に世をさたに川萬海蒸氣船を合九舟千艘と旅
を却し一番指より家作八三階五階にして結構美麗を
盡し人員凡八十万人といふ我〳〵九港をとりくまを
馬二疋ようせ三疋を人或八二人添乗りて是を乗すむ
ることを多しまたまが八黑塗に〳〵金銀の飾りをなし内ハ
天鵞絨をもつて張詰めしる櫂を或ハ帆をサンドス氏と共ハ
乗ず〳〵メツロフホランタンといふ諸義屬を高日本使節の家なり